

「第9回計算光学研究会」報告

【報告者】龍澤 友里（千葉大学）

【日程】2016年7月6日（水）

【参加人数】20名

【開催場所】埼玉大学東京ステーションカレッジ

【報告】

2016年7月6日13時より、埼玉大学東京ステーションカレッジにおいて、第8回計算光学研究会が開催された。宇都宮大学、埼玉大学、千葉大学、電気通信大学、静岡大学、東京工業大学の6つの大学から19名の学生と1名の教員が参加し、口頭発表とそれに対する質疑応答や議論を行った。

本研究会では、コンピュータの発達や高速化に伴う情報処理技術の多様化・複雑化のもと、光学分野の研究を行う若手教員や研究員、学生が自分のもつ技術を持ち寄り、情報交換や議論を行うことにより大学を跨いで知識や技術を共有することを目的としている。さらに、学生が主体となり研究会の運営を行うことで学生間のネットワークを形成し、交流を通じた学生の視野拡大を目指すものである。

今期の開催では、学生3名による口頭発表が行われ、光学分野の研究を主とする内容が議論された。当初の予定では4名の学生が発表する予定であったが、当日1名が欠席したため、3名での発表となった。

サブピクセル方式による画素内圧縮型超高速CMOSイメージセンサのシミュレーションと設計や、正射影光線サンプリング面による大規模計算機合成ホログラムの分割計算、ホログラフィックプロジェクタにおける再生像高画質化アルゴリズムの高速化の検討と、多彩な研究について発表され、積極的な質疑応答がなされた。基本原理から応用まで、少人数の開催だからこそ可能な議論も活発に行われた。

口頭発表後は、COWGの幹事の役割分担について話し合った。前回、幹事の役割を変更したため、今回の研究会開催における問題の有無を確認した。また、開催地が関東に偏っていることと、発表者数の減少についても議論した。

研究会の終了後には懇親会が行われ、活発な意見交換がなされた。また、大学を跨いだ学生同士の親睦が深められ、有意義な場となった。全体を通し、本研究会の目的を達成するとともに、有意義な時間を提供することができた。

本研究会が開催されるにあたり、顧問である情報通信研究機構の成瀬誠先生、ワーキンググループ幹事と参加者の皆様、そして各関係者の皆様に多くの協力を頂いたことに感謝し、この場をお借りしてお礼を述べさせていただきます。